

第24号

公式HP  <https://www.miaki.org>

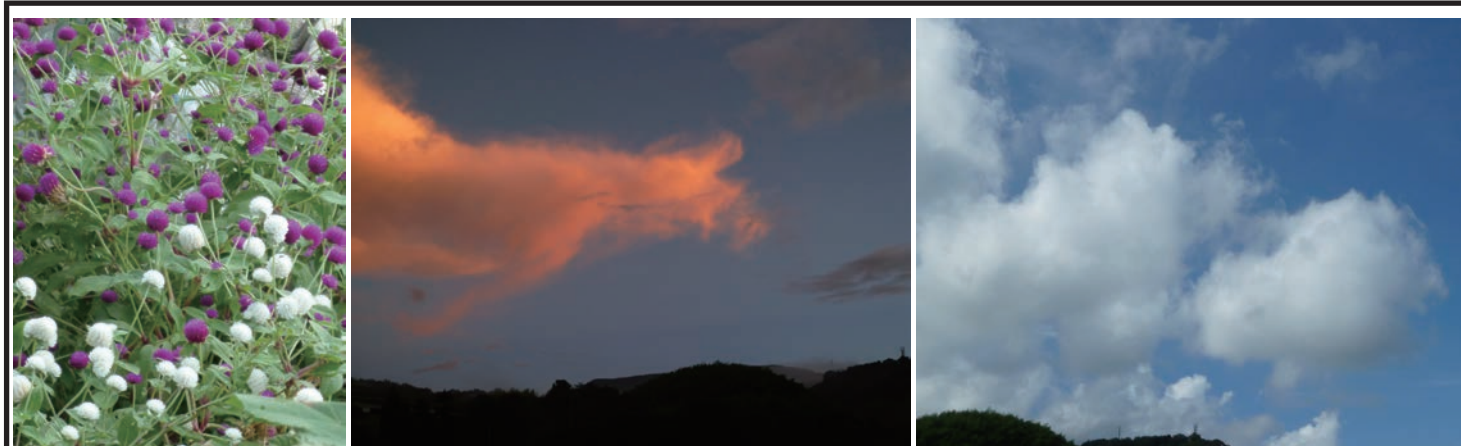


**三秋で見つけた赤と白  
（自然・植物）**

（文責） 日山 貞治

前号で、工作物や構造物について紹介しましたが、今号では自然現象や植物について紹介したいと思います。

三秋で見つけた赤と白は、屋間の雲と夕日を浴びた雲、植物の花では、ベゴニア・サルスベリ・ハナモ・コスモス・ヒガンバナ・センニチコウ、果実ではナンテン・マンリョウなどがありました。



千日紅 赤い雲 白い雲



南天赤



南天白



コスモス赤と白



サルスベリ赤

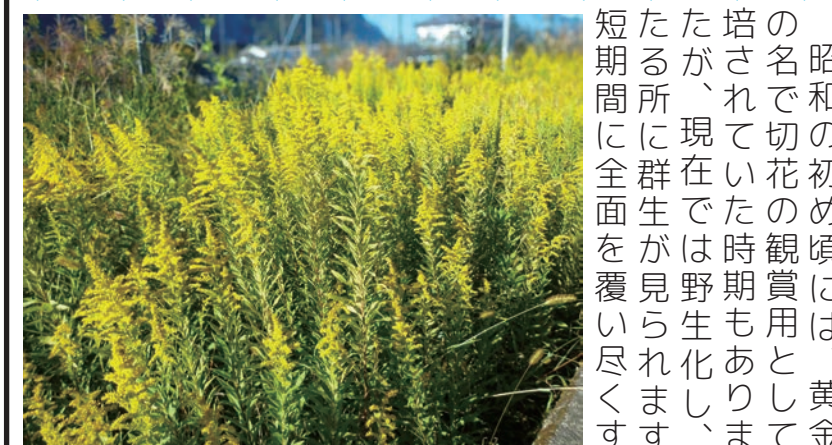


サルスベリ白

**大きな黄色い花  
セイトカアワダチソウ**

（文責） 日山 貞治

休耕田やあぜに、秋になると黄色い花を咲かせるセイトカアワダチソウが現れます。この花には蜜があり、重要な蜜源（ハチミツ）にもなっている時期があります。また、花粉症や気管支喘息の原因植物とも言われたこともありました。大型の帰化植物（外来種）なので、よい印象を持っていない人が多いようです。



セイトカアワダチソウ

うになります。自分自身が発する他の植物の生育を阻害するアレロパシー（他感作用）により、数年で衰退すると言われていています。

**南海トラフ地震に  
備え**

（文責） 原田 浩明



負傷者の対応についての講習

令和6年11月17日、伊予小学校グラウンド及び体育館にて、令和6年度伊予市総合防災訓練が行われ、三秋地区の代表として、区長をはじめとする三役の皆さんとともに、訓練に参加して参りました。まず、伊予市でシミュレーション（地震の際の安全確保行動）をまず低く、頭を守り、動かないを身に付ける訓練（一）を行いました。その後、防災訓練などの各ブースを回りながら、来たるべき南海トラフ地震に備えて、防災意識を高めると同時に、発災時に自分ごとと考える機会となりました。南海トラフ地震の発生確率が高まっていることから、災害が起きる前にできることを身近なところから確認してみよう。



災害時の車中泊を想定した展示

**江戸時代の三秋村の  
人物像**

（文責） 日山 貞治

令和五年（2023）8月に発行された、『伊豫稲荷神社文化財調査報告書』に記載されている、江戸時代における三秋村（邑）の人物像について調べてみました。

三秋の人物が記載されていたのは、山崎稲荷神社資料（一）、（二）、御神位記（第一巻）（第二巻）、棟札、瓦製狛犬（本殿前）です。

江戸時代前期の寛文二年（1662）の六右衛門にはじまり、幕末の文久二年（1866）



伊豫稲荷神社文化財調査報告書



- 2）までの二百年間に、九名の名前が出ています。
- 年号と人物名
- 寛文二壬寅年九月吉日（1662）
- 三秋村 六右衛門
- 元禄十五壬午年正月吉祥日（1702）
- 三秋村庄屋 越智太平次
- 安永三甲午年七月六日（1774）
- 三秋村庄屋 得能六郎左衛門
- 享和二年（1802）
- 三秋村庄屋 得能六郎左衛門
- 文政十丁亥年卯月二十五日（1827）
- 三秋村庄屋 得野春五郎
- 文政十一年戊子年夏四月二十一日（1828）
- 三秋村庄屋 得野春五郎
- 文久二壬戌歳九月吉日（1862）
- 世話人 元蔵・松造・金蔵
- 寛政十二年（1800）の『豫州大洲領御替地古今集』では、市兵衛・越智喜平治・得能六郎左衛門の名前が記載されています。

**秋空と神輿**

（文責） 原田 夏子



子ども神輿



大人神輿



神輿を回す子どもたち



子どもたち全員で記念撮影



神輿を回すかき手たち

神輿を担ぐ姿は、子ども神輿、大人神輿ともに、この日の青空によく映えています。

**軒先瓦（軒丸瓦・軒平瓦）  
ウォッチング②**

（文責） 日山 貞治

前号で軒丸瓦を紹介しましたが、今回は軒先瓦のうち軒平瓦のデザインについてウォッチングしてみました。

三秋地区では、唐草紋がほとんどですが、縦連子の文様も確認できました。唐草紋も、中心飾りが三弁花であったり半菊花であったり橘紋や葛紋であったり様々です。外側の唐草の文様が違っていても楽しむことができます。

本瓦葺きは、屋根自体の重量が重くなるので、最近の住宅では見なくなりました。かろうじて寺社建築で見られるようになっていきます。

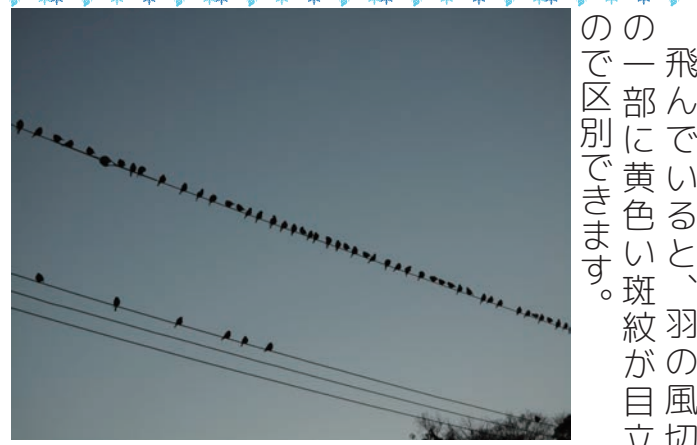


カワラヒワ

**カワラヒワの集団**

（文責） 日山 貞治

冬になると、農耕地や電線にカワラヒワの集団を見ることがあります。数十羽の群れでスズメによく似ています。姿も大きさもよく似ていて「緑色のスズメ」と言われるくらいです。



カワラヒワの群れ

**お亥の子さ〜ん**

（文責） 原田 浩明



折戸組の亥の子



下三秋組の亥の子



11月9日に折戸組で、11月19日に下三秋組でそれぞれ亥の子が行われました。折戸組はワラを棒状に束ねたものを各自がもって地面を叩く「ワラ棒スタイル」、下三秋組は、丸い石に繫いだ縄を引き、石を上下させて地面に打ち付ける「亥の子石スタイル」です。

年々子どもの数が減っている中で、こうした伝統行事を継続していくことは難しくなっており、下三秋の場合「亥の子石スタイル」の場合は、縄を引く人数が最低でも4人必要のため、今後も継続していかれるか危ぶまれています。